

石 すとん・さーくる

No.96

発行 新潟県石仏の会(代表 星野 紀子)

2016年6月10日 発行

事務局 ☎945-0837 柏崎市三島町16-2 渡邊三四一

電話0257-22-1941

ホームページ <http://niigata-sekibutu.voxx.jp>

ズベキスタンのテルメズ郊外のファヤズ・テパへ向
かって荒野の丘を歩いていた。午后四時二十五分。
ファヤズ・テパに立つた。復元された仏塔とその周
辺遺跡以外は、何も見当らない。一九六八年に發
見されたクシヤン朝時代遺跡である。忽然と發掘し
たままの遺跡が遺っている。紀元後一世紀のクシャ
ン朝時代は、ゾロアスター教のみならず仏教等も手
厚い保護をした。その仏教遺跡なのである。きれい
に修復された仏塔の中にオリジナルの仏塔がある。
隣には出土した僧院跡や聖水を使ったと思われる
「儀式の間」や僧の居住区、厨房等がある。半円形
の三尊仏発掘の跡が生々しい。三尊仏は、タシケン
ト歴史博物館にある。行つてみると、同館は、大幅
改造中。

見ること
かなわず。

ただ、館
長ツルグ
ネフ氏の
丁寧な説
明を受け
る。東西
の文化を



ファヤズ・テパの三尊仏

現在の「白鳳文化・国宝・薬師寺金堂薬師三尊像」を子細に見る。

薬師三尊像は、上の框（かまち）がギリシア葡萄・唐草模様であり、中の框は、ペルシア、蓮のデザイン蓮華模様である。下にはインドの神々の姿。最下段框に中国の四神・東に青龍・西の白虎・南に朱雀・北に玄武がある。ここに、ギリシアからペルシア、そこからインドへそして中国から日本へと繋がる仏教文化が見て取れる。この形式のベースは、ファヤズ・テパ出土の三尊仏そのものである。写真を見て下さい。館長ツルグネフ氏の言葉通り、遙か中央アジアの仏教文化が日本に渡っていることが見てとれる。

シルクロードと唐帝国は日本史の一部であると森安孝夫氏がその著作で述べている。（興亡の世界史・第五巻 シルクロードと唐帝国）

中央ユーラシアの草原から豊かに醸成されてきた文明は、その行く先々の国で形を変えながらも、世界の人びとの生活に深く関わってきた。

遙か、ウズベキスタンの大地に立つて、見て、白鳳文化・国宝・薬師寺金堂薬師三尊像とつながるシルクロードを体感する。世界が繋がっていることを

形にしている像であると彼は言った。その継承された文化を日本で見ることが出来る。

現在の「白鳳文化・国宝・薬師寺金堂薬師三尊像」を子細に見る。

薬師三尊像は、上の框（かまち）がギリシア葡萄・唐草模様であり、中の框は、ペルシア、蓮のデザイン蓮華模様である。下にはインドの神々の姿。最下段框に中国の四神・東に青龍・西の白虎・南に朱雀・北に玄武がある。ここに、ギリシアからペルシア、そこからインドへそして中国から日本へと繋がる仏教文化が見て取れる。この形式のベースは、ファヤズ・テパ出土の三尊仏そのものである。写真を見て下さい。館長ツルグネフ氏の言葉通り、遙か中央アジアの仏教文化が日本に渡っていることが見てとれる。

シルクロードと唐帝国は日本史の一部であると森安孝夫氏がその著作で述べている。（興亡の世界史・第五巻 シルクロードと唐帝国）

中央ユーラシアの草原から豊かに醸成されてきた文明は、その行く先々の国で形を変えながらも、世界の人びとの生活に深く関わってきた。

遙か、ウズベキスタンの大地に立つて、見て、白鳳文化・国宝・薬師寺金堂薬師三尊像とつながるシルクロードを体感する。世界が繋がっていることを

アムダリア街道を行く
仮教遺跡で仏塔・三尊仏を見る

上越市 青山 増雄



薬師寺金堂の三尊仏

上越地区見学会「北国街道（I）二〇一六」に参加して

上越市木村 明

時折小雨が降る四月二十九日（昭和の日）、集合地点「あらい道の駅」から三十六名の参加者が先導車とマイクロバスに分乗、ま



関川関所にて

ず見学会スタートの「関川関所」へ。あいにくの天気予報でしたが下車しての見学時には概ね傘要らず。会員各位日頃の精進の賜物か、見学会のメインテーマである馬頭観音の御利益か：ありがたいことでした。

新会員の私には初めての見学会で、見るもの聞くもの全てが初体験。前日「北国街道」「馬頭観音」等について俄か勉強したものの、何処を見ても「！」と「？」の連続でした。

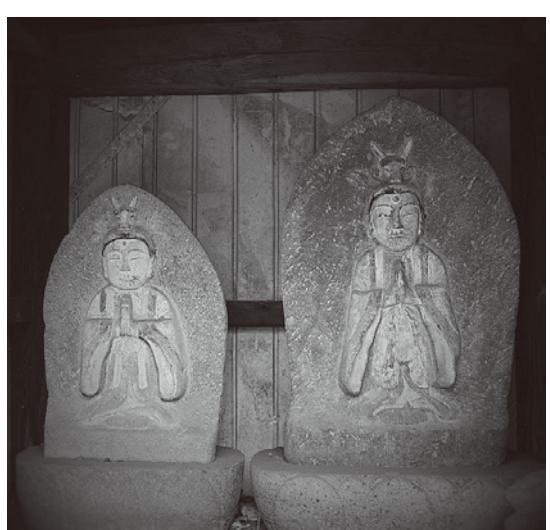
北国街道「関川関所から新井宿まで」の石仏・石造文化財を巡る：が今回のテーマ。上越に住む私にとってこれほどたくさんの文化遺産があつたとは知りませんでした。これからは大いに興味を持つて、そして資料とカメラと我が目をしっかりと持つて、ふるさとの文化財に触れてみようと奮い立つているところです。

個人的には、藤沢村（現上越市中郷区）の街道沿い、想像していたよりも小さな祠に祀られた「彩色馬頭観音」の穏やかさ、静けさ、柔軟さ、美しさに大感動。講師のお話では「馬頭観音は本来憤怒の相で…」とあるのに、この観音の何と優し気なことか。頂戴したしおりに、「馬を慈しむ心でこの石仏を祀ったのだろう…。」とあり、それを読んで妙に納得し、祀られた馬と家

族の思いや、当時の宿場の空気や息遣いを感じられるような気が致しました。「時を超えた微笑」ですよね。あの街道の、あの坂道の途中で多くの人を癒したことでしょう。

それぞれの石仏にはそれぞれの時代背景やその時を生きた人々の思いが込められているのだ：ということを再認識した見学会でした。参加させていただきありがとうございました。

水島・青山両講師の解りやすく的確な説明、そして中身の濃い資料準備をはじめ運営全般にご尽力くださった実行委員の皆様に心から感謝申し上げます。次回が楽しみです。



藤沢の馬頭観音

北国街道駆け歩記 北国街道（I）二〇一六実行委員会

北国街道は佐渡の金銀を江戸に運ぶため整備された街道で中山道信濃追分から高田城下を経由し出雲崎に至る街道です。上越地区では関川関所（妙高市）から鉢崎関所（柏崎市）までを三回に分けて見聞することとし、本年はその一回目として、関川宿から新井宿までを回りました。

関川関所・関川宿・上原宿（合宿）

▼関川関所は高田藩が管轄した関川・鉢崎・市振の三関所の内最も重要な関所で、関所の役割と規模、関所破りの話などを聞きながら宿場の旧跡を回りました。▼田切宿へ向かう小田切坂では馬頭観音と建築に携わる仲間で建立した聖徳太子碑を見ました。

田切宿・一俣宿（合宿）

▼北国街道屈指の難所に置かれた宿場で、馬寄場跡の水溜りには今も馬頭観音が祀られています。▼その又先の難所大田切沢でも馬頭観音が祀られておりその下から出る湧水は旅人の喉を潤したことでしょう。

関山宿

▼妙高信仰の中心をなす関山三社権現

（現）



松崎の馬頭観音

松崎宿・二本木宿（合宿）

▼松崎宿宮尾家の跡地に祀られている自然石の石龕に納められた三面八臂憤怒相の馬

觀音が祀られていました。中でも市屋の馬洗い場跡の大岩に座す三体の馬頭觀音は往時を偲ばせていました。

新井宿

▼宿場の南外れに延命地蔵尊の御堂があります。江戸時代中期に小出雲用水の溜池から見つかり延命地蔵尊として祀られたもの。

▼宿場の北はずれの東本願寺新井別院では芭蕉の句碑、延享四年に洪水で流失し二五〇年を経て発見された梵鐘を見学しました。

▼近くの石塚八幡宮では石祠に納められた八幡神と見られる弓矢を携えた馬上の武神の石板を見ました。

移動距離の長い見学で昼食の時間も短く参加者の皆さんにはご迷惑をおかけしました。次回は高田城下をゆっくりと見学する予定ですのでご期待ください。（漫歩）



関山神社の亀石



二本木古道の大日さま

関山神社）があり、北国街道を挟んだ東側は高田藩領関山村、西側は関山

権現領関山村でし

た。▼南の入口小

野沢の祠には丸彫

りの大日如来坐像と馬頭觀音六体が祀られていきました。▼関山神社では前回（二〇一一年）の見学会では雪の下に埋もれていた御手洗池の亀石を見るることができました。

三社権現の中尊本地聖觀音と共に帰化人系による仏教伝播が窺える貴重な資料です。

▼二本木宿への街道では路傍に多くの馬頭觀音が祀られています。中でも市屋の馬洗い場跡の大岩に座す三体の馬頭觀音は往時を偲ばせていました。

頭觀音は馬喰を稼業としていた先祖が建てたものです。

▼二本木集落の東北、片貝川に沿った古道の「大日」

という小字に五体

の古石仏が祀られています。大きい二体は南北朝期、小さい三体は室町中期の作と推定され、村人からは大日さまと呼ばれています。▼二本木の先の藤沢に彩色された二体の美しい馬頭觀音が祀られており、これまた二体の美しい馬頭觀音が祀られており、今回一番注目を浴びました。

事務局だより



◇夏の一泊見学会のお知らせ

期日	7月16・17日（土・日）
テーマ	秋田県南地方の藁人形と石仏を歩く——湯沢・横手・大仙市——
案内人	大槻和正氏（会員・角館出身）
参加費	34000円くらい（参加人員により若干変動します）
定員	20名（貸切中型バス利用、集合等の詳細は別紙チラシ参照）
宿泊	雄川荘（雄物川を望む温泉宿）
申込み	7月1日（金）までにハガキかFAXで事務局・渡邊まで

上り（長岡→） 8時50分着
下り（直江津→） 9時02分着
昼食は八王子の「ステーキハウス八石」で特注ランチ定食

昼食は八王子の「ステーキハウス八石」で特注ランチ定食

参加費	3500円（昼食代等含む）
定員	20名（貸切小型バス利用）
申込み	8月31日までにハガキか電話で
	TEL 090-8800-4833

◇中越地区石仏見学会のお知らせ

期日	9月24日（土）9時30分～15時30分
テーマ	柏崎・小国の石仏を歩く——名工藤原直隆・一智の足跡を辿る——
探訪地	柏崎（不動院の龍頭観音・清龍寺の弘法大師塔・淨広寺の一石六地蔵ほか）、小国（八王子集落の石仏群・山口邸郷土資料館）
集合	9時30分 柏崎市文化会館（アルフォーレ）前駐車場
	※JR柏崎駅から徒歩7分（柏崎市日石町4番32号）

第二部の総会（会員30名・一般1名）では、平成27年度事業報告・決算報告が審議され承認。さらに会則改正では、下越・新潟地区統合など会の現状に即した改正案が示され承認されました。続いて28年度事業計画（案）・予算（案）が審議され承認されました。なお、詳細については別紙資料を参照願います。

◇28年度総会が開催されました

去る5月8日（日）13時～16時30分、今年度総会が長岡まちなかキヤンパス（301）で開催されました。以下、概要を報告します。

第一部は公開講演会で、高橋郁子氏（県民俗学会理事・新潟妖怪研究所長）より「越後の妖怪——特に弥三郎婆を中心にして——」をご講演いただきました。井上円了の妖怪論を枕に、越後の多彩な不思議と妖怪伝承を自作のイラストを交えた画像を通して分かりやすく解説されました。講演後、フロアからカツバの膏薬がなぜ「アイス」と呼ばれるのかの問い合わせ、酢を調合に使用することとの関連を示唆され印象に残りました。参加者34名（一般4名含む）。



講演の高橋さん

【新入会員】 木村 明（上越市）、

山田 孝（上越市）、平井俊雄（妙高市）

◎新年度会費納入のお願い

今年度会費を同封の振替用紙にて納入をお願いいたします。

編集後記

本号よりA4判に衣替えし、年三回発行となりました。今後も読みやすい紙面づくりを目指します。（事務局一同）